

平成26年度 県立下館第二高等学校自己評価表

No. 1

目指す学校像	文武両道を目指し、心身ともに健康で情操豊かな人間の育成に努める。 教育活動全体を通じ、自発的な学習意欲や自律の心、途中で諦めない精神力の醸成を図る。 マナー、絆、助け合うことの大切さ等道徳教育の推進を図る。教育活動において、学校安全を意識した学校づくりをすすめる。					
成果	昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況		
進学指導においては、国立大学合格者数が13名と昨年を大きく上回った。私立大学合格者数においても中央、法政、日大、駒澤大等中堅クラスの大学に複数名が合格するなど一定の成果があった。今後も家庭学習の励行等を通じ、国立大学や難関私立大学への合格者数増を図るなど一層の進学指導の整備充実を図ってきたい。特別活動においては、部活動加入率は69%で昨年とほぼ変わらないが、目標の70%には若干届かなかった。 課題 学力の向上という点で、上記の進学実績とは別に中位層の伸び悩み等の課題がある。生徒指導においては、欠席・遅刻・早退数が前年度比12%増ということで基本的な生活習慣の確立という点でまだ不十分などところがある。今後、道徳教育の充実と相まって、「下館二高3Aプラン」(Access, Act, Achieve)の体制整備を図り、「生きる力」の育成に努めていきたい。	・学習意欲の高揚と学力の向上	各教科の特性に応じて、公開授業を含めた授業研究や生徒の実態に応じた選択授業(習熟度別授業等)などを行い、教科指導の工夫・改善・充実を図る。	B			
	・生徒指導の総合的推進と「心の教育」の充実	挨拶や清掃を励行し、遅刻や欠席について対前年比10%減を目指し、正しい服装や基本的な生活習慣の確立を図る。また、交通安全教育を推進し、交通事故の絶無に努める。	B			
	・キャリア教育の充実	進路情報を充実させ、ホームルームにおける進路指導及び進路講演会等を通して、望ましい職業観・勤労観の育成を図り、進路希望の達成率を高める。	B			
	・環境教育の充実と特別活動の活性化	学校行事や清掃美化および緑化活動を通じて奉仕の心や環境保全の意識を高める。生徒会活動や部活動を通して社会性を高め、豊かな情操を養い、明るく活力ある学園づくりを目指す。部活動加入率70%以上を目標とする。	B			
	・「道徳」教育の充実と「生きる力」の育成	自己の尊厳を深く自覚するとともに、善悪を正しく判断し、自分の行動に責任を持てるよう「道徳」教育の充実を図る。「下館二高3Aプラン」の推進体制を整備し、進路について考察する学習活動をさせ、自己理解と変化する社会を認識することにより、「生きる力」の育成を目指す。	B			
・学校安全計画の策定と学校安全の意識の向上	関連する教科・校務部・部活動等を含む学校安全計画を策定する。学校安全委員会(仮称)を開催し、学校安全の状況をチェックし、その改善を図る。	A				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題		
教科指導	一人一人の能力を把握し、個に応じた学習指導を充実させ、基礎学力の向上を目指す。	生徒の実態に応じた選択授業を取り入れる。 課題や小テストを通して学習理解度を確認する。 学習評価においては、観点別に評価する。 英語検定など、資格取得を奨励する。 希望者には課外授業を実施して学力向上を図る。	A A B A A	A	生徒の実態に合った授業や評価をより充実させる。 課題の内容や量を再検討し効果的な学習方法を確立する。	
	ブライツホールや図書館を活用し、自学・自習の習慣を身につけさせる。	課題やテスト等の到達目標ラインを生徒に示すなどして、自学自習の習慣を身につけさせる。	B			B
教 国 語	学力の向上を図る。	小テストを利用して学習の理解度を把握し、不十分な生徒へは補習を実施する。 生徒の進路希望に対応した授業内容を展開し、希望者には課外授業を実施する。 学習評価においては、観点別に評価する。	A A A	A	家庭学習習慣のさらなる確率を指す。 進学することを前提とした進路に適した授業を行う。	
	自学・自習の習慣を身につけさせる。	課題を定期的に点検し、自学・自習の習慣を身につけさせる。	B			B
科 地 歴 ・ 公 民	生徒の進路希望に応じた学力の向上に努める。	定期考査による生徒の学習状況確認の他、小テストや確認テストを行い、学習到達度を把握し、今後の指導に生かす。 生徒の進路希望に対応した授業内容を展開し、大学進学希望者には課外等を実施する。 生徒の進路実現のための各種模擬試験等に対しては、試験対策・解説授業を展開する。	B A A	A	・映像・写真資料といった視覚教材を活用し、生徒の興味・関心を促す。 ・積極的に研究授業を行い、生徒の実態に合わせた授業展開を心がける。	
	広い知識と理解力の向上のために、授業の改善に努める。	教科会を定期的に開き、授業実態の把握と指導方法や授業内容の改善に努める。 高校教育研究会等の各種研修会に参加し、情報の共有や自己研鑽に努める。 必要に応じて外部講師等を引き、知識の有用性を認識させるため体験的な学習を展開する。	B A B			B
	数 学	学力の向上を図る。	生徒のレベルに合った授業展開をし、理解力を上げる。 課外授業を通して、学力の向上を図る。 小テストを定期的に行い、基礎力の定着を図る。	B A B	B	新課程入試に対応した体制をより深めていく。
		家庭学習の定着に努める。	定期的に課題を与え、家庭学習の定着を図る。	A		

理科	一人一人の能力を把握し、進路に応じた基礎学力の向上に努める。	生徒の進路希望に応じた授業内容を展開し、大学進学希望者には課外等を実施する。	A	A	・自主的な学習活動を促す指導を工夫していく。 ・実験研修等を行い、わかりやすい授業を心がける。	
		休業中には課題等を与えて、学習習慣の定着を図る。	A			
実験を適宜実施し、科学的方法を学習させるとともに、興味・関心を高める授業展開を行う。		B				
学習評価においては、観点別に評価する。		A				
	視聴覚教材やITを活用し、興味・関心の高揚を図る。	ビデオやDVD等の視聴覚教材、またはITを利用した授業を展開し、生徒の学習意欲を高揚させる。	B	B		
保健体育	体力・理論を実技に生かし、自己の身体を発達・向上させ、その方法を身につけ、生涯を通じて運動ができる能力を養わせる。	生徒の興味・関心の持てる種目を取り入れる。	C	B	生徒がより積極的・主体的に取り組むことができる授業展開。	
		各種目の練習の仕方、ルールや審判の仕方の理解度を確認する。	B			
		学習評価に於いては、観点別に評価する。	A			
		自分に合った練習によって技能や記録の向上を図る。	B			
芸術	個別指導を充実させ、個性的・創造的な表現の能力を伸ばす。	生徒の実態に応じた授業選択を取り入れる。	A	B	・観点別評価を改善して評価の明確化を図る。 ・幅広い作品を学習することで芸術に対する視野を広げる。	
		課題制作や実技テストを通じて、生徒一人一人の能力や到達度を把握する。	B			
		評価においては、観点別に評価する。	B			
	伝統文化への理解を深め、鑑賞能力を育成する。	作品発表を通して、互いに鑑賞し合う場を提供する。 視聴覚教材等を活用し、名作を鑑賞する機会を取り入れる。	A B	A		
英語	一人一人の能力を把握し、個に応じた学習指導を充実させ、英語の基礎学力の向上を目指す。	生徒の実態に応じた授業展開を工夫し、生徒の学習意欲を喚起する。	A	A	・自主学习を促す指導を徹底する。 ・引き続き観点別評価の改善に取り組む。	
		週末課題等を与えて、学習習慣の定着を図る。	A			
		小テストを通して、学習理解度を確認する。	A			
		学習評価においては、観点別に評価する。	B			
		英語検定など資格取得を奨励する。	B			
	課外授業、土曜講座等を実施して学力向上を図る。	A				
自学自習の習慣を身につけさせる。	課題やテスト等の到達目標ラインを生徒に示すなどして、自学自習の習慣を身につけさせる。	B	B			
家庭	家族や生活の営みを人の一生との関わりの中で捉え、男女が協力して家庭や地域の生活を創造する能力と実践的な態度を育てることを目指す。	個々の生徒の実態把握に努め、興味・関心を高める授業展開を図る。	B	A	興味関心を持って授業に取り組ませ、将来の生活を創造する意欲を図る。	
		作業や実習を取り入れ学習効果を高めるとともに、ホームプロジェクトで実践的な能力や態度を身につけさせる。	A			
		実習やグループ学習を通じて、男女が協力して創造する態度を育む。	A			
		食物検定など、資格取得を取り入れ、生活に必要な知識や技術の向上を図る。	A			
情報	コンピュータ操作に慣れ、情報の基本的表現処理能力の向上を図る。	ワープロ・表計算ソフトを用いて、簡単な文書作成・データ集計ができるよう知識や技術の向上を図る。	A	B	対象学年の生徒に合わせた課題作りが必要。	
		課題提出を定期的に行うことにより、生徒の理解度を確認する。	A			
		学習評価に於いては、観点別に評価する。	B			
		放課後コンピュータ教室の開放日を設け、生徒が自ら実習できるよう援助する。	B			
教務	学校行事の精選と日課の適切な運営を行う。	各校務分掌、学年などと連携しながら年間行事予定や月別行事予定を作成し、日課を計画的に運営する。	A	A	新課程の完成にともない、観点別評価に対応したシラバスと評価方法の研究をさらに深める。	
		学校行事や集会等の内容等を検討し、効率的な学校行事の運営に努める。	A			
	授業時間の確保と各教科の学力向上を図る。	出張等の授業交換を適切に行えるよう授業交換簿を適切に管理し、授業交換の情報提供に努める。	A	A		
		学校行事等に伴い特編授業を積極的に編成し、授業確保に努める。	A			
	諸帳簿・諸用紙の整備と保存、記録の正確化を期す。	学習成績等の情報の有効活用を目指す。	B	B		
		教職員が使用しやすいよう定期的に諸帳簿等を整備し、適切に管理する。	A			
	校内LANの適正な運営を行う。	校内LANを活用することにより、教員間における様々な情報の共有化を図る。	A	B		成績処理の点検、入力確認の徹底を図る。
		迅速で正確な成績処理に努める。	B			
学校業務のIT化を図り、円滑な学校運営を期す。	望ましい職業観・勤労観の育成を図るため、進路情報が入手できるようインターネット環境の整備に努める。	A	A	情報セキュリティ対策の認識を高め、適切な対応を図る。		
	ホームページを適切に管理・運営し、学校内外に対して様々な情報を提供する。	A				
	学校業務のIT化を図るため、関連する備品等の適切な管理に努める。	A				

特別活動	学校行事・部活を通して望ましい人間関係を形成し、連帯感のある豊かで充実した学校生活を送る。	体育祭・球技会は、生徒主体に企画運営を行う。	A	B	特活部全体の共通理解を図りながら行事等を実施する体制を進める。 貸切りバスの新料金制度への対応を検討し実施する。 部活動の退部者増による加入率低下への対策を図る。		
		各学校行事の意義を理解させ、全員参加を目指した指導を徹底する。	B				
		学校行事を通して、クラスの連帯感を強め、生徒の協調性を養う。	B				
	特別活動を通して、自主性・協調性を養い、協力して諸問題を解決しようとする実践的態度の育成を図る。	学校行事の充実と向上を図る生徒会活動は、生徒主体による企画運営を行う。	A	B			
		生徒が部活動に積極的に参加できる環境を作り、部活動加入率70%以上を目指す。	B				
		生徒の自主的・自発的な活動が促進できるよう顧問が適切な援助指導を行う。	B				
生徒指導	基本的な生活習慣の確立、挨拶の励行に努める。	年間を通し、昇降口において毎朝、挨拶・服装指導を実施し、よい習慣を身につけさせる。	B	B	朝の挨拶・服装指導の充実を図る。 交通安全指導の徹底化。 規範意識のさらなる向上を図り、生徒一人一人が充実した生活を送れるようにする。		
		職員の週番により校内巡視指導1回・校外巡視2回を実施することにより、問題行動の未然防止に努める。	A				
		規範意識の確立や服装・頭髪の正常化を目指し、全校集会・学年集会・HR等で周知徹底を図る。また、服装の乱れに対しては段階的な指導を行う。	B				
		教室や自転車の施錠を徹底し、盗難予防に努める。	B				
		遅刻者対策として、月5回以上遅刻した場合は保護者に連絡し、家庭と共に指導する。2ヶ月連続で5回以上遅刻した場合は、保護者に来校を求め学校と話し合いを持ちながら指導する。	A				
	交通安全教育の推進と事故防止に努める。	全校集会や学年集会・HR・校外登校指導等において、交通マナーの意識高揚を図る。	B	B			
		交通講話やバイク実技講習会を実施し、交通規則の遵守と命の大切さを呼びかける。	A				
		家庭や地域・関係諸機関・団体と連携を密にして、健全な高校生の育成を図る。	A			A	
		地元教育委員会や警察と連携し市内の巡回指導を計画的に行い、問題行動の未然防止を図る。	A				
		家庭・地域社会・関係機関と連携して、生徒が自ら校則や社会のルールを守り、公共マナーを身につけるための活動をする。	B				
進路指導	生徒が自らが在り方・生き方を考え、主体的な進路選択ができるように支援する。	1・3年次は進路講演会、2年次は大学の模擬授業を実施する。	A	A	・進学を見据えてのインターンシップの実施計画など キャリア教育の年間計画の作成 ・生徒及び保護者の進路意識の高揚		
		本校卒業生の受験報告会を実施する。	A				
		1日看護体験やリハビリ体験を実施する。	A				
		年3回の面談週間を実施し、生徒の進路、学習方法、悩みを聞き、進路意識を高める。	A				
		ブライトホールの利用を促し、自学自習の習慣の確立を目指す。	B				
	多様な生徒の実態に対応できるキャリア教育指導体制の確立を図る。	進学希望者に対して多様な課外講座を開設し、内容の充実と参加率の増大を目指す。	B	B			
		公務員・就職希望者に対して、指導を早期に行い、意識の高揚と進路実現に努める。	A				
		進路情報を充実させる。	「進路の手引き」を発行し、進路情報を積極的に提供する。			A	A
			「進路だより」を年3回程度発行する。			A	
			進路指導閲覧室の利用促進を図る。			A	
前年度入試結果の情報を活用する。	A						
保健厚生	充実した高校生活を送るための心身の健康維持・増進を図る。	各学年と連携し、生徒の精神衛生の実態を把握し、指導に努める。	A	A	心身の健康についての自己管理能力を育む。 新校舎にともなう、安全や美化環境づくりに努める。 不適応生徒に対する早期対応と適切な支援に努める。		
		月毎に病気や健康に関する情報について、掲示物を通して生徒に知らせ、自己管理できる能力を育む。	A				
	生徒が安心安全に高校生活を送ることができるよう、環境整備・環境美化に努める。	月ごとに安全・美化点検を実施し、危険箇所・設備などの調査を行い、環境づくりに努める。	A	B			
		防災避難訓練等を通し、自ら危険等から回避できる能力を育む。					
		教室内の空気・照度検査、飲料水の水質検査を実施する。					
	学期始めと終わりの大掃除や年2回の教室のワックス塗布を行い、また1年生によるクリーン作戦や緑化活動を実施して、学校敷地内や通学路の環境美化を図る。	カウンセリングの後の担任および学年との連絡を密にする。	A	A			
		P T A資料などで広報する。	A				
		定期的な（年5回を目安）学年主任および関係者による情報交換会を持つ。	A			A	
	学年との連携を密にし、不適応生徒の支援に努める。	各学年と連携し、定期的な欠席や遅刻の多い生徒を掌握する。	B				
		不適応生徒には、早めにカウンセリングを開始する。	A				

図 書	自学学習を支援するために図書室の充実を図る。	図書室内の美化や図書の配置・整備を考え、利用しやすい環境を整える。	A	B	図書委員会及び視聴覚委員会の活性化を図る。	
		生徒に必要な図書購入に努め、進路実現の支援をする。	B			
		授業等で利用する資料を揃える。	C			
		平日8:40～16:50（特に昼休み・放課後）の開館に努める。	A			
	生きる力を身につけるための支援として、読書の推進を図る。	生徒・職員の希望図書を購入し、「新着図書案内」を年5回以上発行する。	B			A
		「図書館だより」を年5回発行し、生徒等の読書体験を紹介する。	A			
渉 外	各種行事への保護者の参加率を高め、家庭との連携を密にする。	図書委員会主催の読書会を開催し、他の意見を理解する姿勢を身につける。	A			
		家庭と学校が連携を取り、生徒一人一人の健全な育成を図る。	A	A	来年度もPTA総会の出席率のさらなる向上を目指す。	
		PTA総会、各支部会活動を通して各支部の機能が十分発揮できるようにする。	A			
		学校の教育活動を積極的に広報するため、PTA便りを年2回発行する。	A	B		
PTA活動の活性化のため、会員相互の親睦と研修の機会を設定する。	B					
第1学年	基本的な生活習慣を確立し、学習習慣を身につけさせ、進路意識の向上を図る。	遅刻・欠席・早退の減少を図るとともに予習・復習を励行し、授業に積極的に参加させる。	B	B	基礎学力の定着と学習意欲の向上を目指す。挨拶の励行と服装指導の徹底を図る。進路学習をさらに進める。清掃等をきちんと行う習慣を身につける。	
		課外・土曜講座に積極的に出席させ基礎学力の定着を図る。	B			
		進路学習に取り組み、2・3年次の進路選択・進路決定へつなげる。また、定期テスト・模擬試験などの分析を行い、学年の状態を客観的に把握する。	B			
	特別活動へ積極的に参加させる。	充実した高校生活を送るため、部活動への加入を働きかける。	B	B		
		学校行事・委員会などに主体的に参加させる。	A			
	豊かな精神を育む。	礼儀や挨拶を身につけさせる。	B	B		
清掃・ボランティアに参加し、奉仕の心を養う。		B				
人の話や意見に対して、素直に聞き、また相手を尊重し合う態度を養う。		B				
第2学年	主体的な学習活動を確立させる。	欠席・遅刻・早退の減少を図り、授業に前向きに参加させるとともに、家庭学習の習慣を定着させる。	B	B	基本的な生活習慣の確立。特に遅刻を減らす。進路目標の早期決定と進路意識の向上を目指す。生徒個々の進路実現とより良い学校生活のため、学年の職員間の情報の共有をより充実させる。	
		課題テスト・一斉テスト・小テストなどを定期的実施し、基礎学力の定着を図る。	A			
		定期テスト、模擬試験などの分析を行い、学年全体や生徒個々の実情を客観的に把握するとともに、進路指導に役立てる。	B			
		課外・土曜講座に積極的に出席させ、学力の定着と更なる向上を図る。	B			
	特別活動に積極的に参加させる。	部活動への継続的参加を促し、充実した高校生活を送らせる。	C	B		
		学校行事に対して主体的に参加させる。	A			
豊かな精神を育む。	礼儀や挨拶を身につけさせる。	B	B			
	奉仕の精神をもって、清掃やボランティア活動に参加する心を養う。	B				
	人の話や意見を素直に聞く態度を養い、コミュニケーション能力を高める。	B				
第3学年	進路指導の充実を図り、個々の生徒に応じた進路実現を目指す。	全体指導・個人指導を通して、進路に対する意識を高める。	A	A	生徒の進路希望が多様化する中でも結構対応できたように思われる。特に面接指導や小論文指導などは良かった。夏休み以降、一部の生徒の欠席・遅刻が目立つようになった。また、保健室に逃げ込む生徒も数多く見受けられた。	
		授業に集中させるとともに、課外・土曜講座に積極的に出席させ、学力の向上を図る。	A			
		進路指導部・担任・生徒・保護者間の連携の強化と情報提供の充実を図る。	A			
		進路実現のために、協力し合える環境作りに努める。	B			
	最上級生としての自覚を促し、高校生活の充実を図る。	欠席・遅刻・早退・欠課の減少を図り、生活習慣の重要性を再認識させる。	B	B		
		部活動・学校行事の中心として活動させる。	A			
社会人としての素養を育む。	身だしなみや礼儀・挨拶を強化する。	B	B			
	奉仕の精神をもって、清掃・ボランティアに参加させる。	B				
	人の話や意見に対して、素直に聞く姿勢や態度を養う。	A				

※評価基準：A:十分達成できている B:達成できている C:概ね達成できている D:不十分である E:できていない